

長崎、さるくの旅

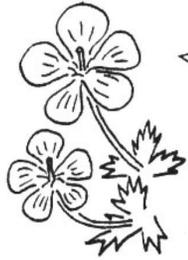
歴史・文化・グルメ探訪♪

山歩きからウォーキング中心となり、ついに「ぶらぶら歩き」の報告です。歩いたのは長崎！とつても魅力的な町でした。長い間ただ一つ世界に開かれた場所でもあり、その歴史や文化は奥深いと感じずにはいられません。特に周平は食文化に大いに刺激を受けたようです。爆心地に建つ平和の像は「ここから平和を1から始めよう」と語りかけているようでした。

私たちが入っている「八ヶ岳歩こう会」の中には知る人ぞ知る「歩こう会」という裏の会(?)、以前長崎に単身赴任があり、時々反省会とか励ます会とか名目をつけて集まって歓談しています。ある時、メンバーの1人が、

風の通り路

408-0044 山梨県北杜市小淵沢町10122
0551(36)3826 ペンション風路

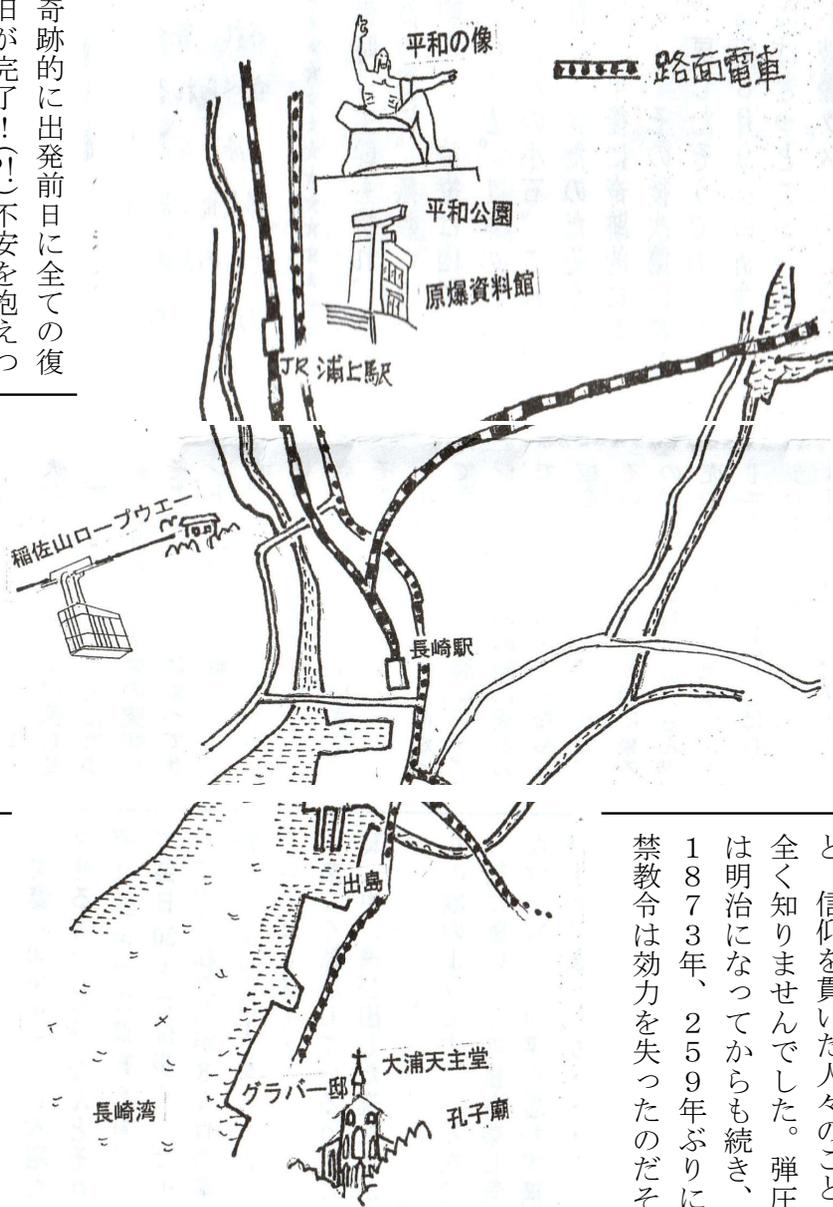


あわやキャンセルか!?
さて、半信半疑のまま、あつという間には時は過ぎ、出発日もせまってきた頃。

以前長崎に単身赴任をしていた、ということから「長崎街道を歩くのもいいね」と盛り上がりました。よくよく考えると、街道歩きは日数も体力もかなりいりそう、とりあえずは長崎の町を歩いて観光するのがいいのでは?と無難なところに落ち着きました。長崎には「さるく」ということばあり、ぶらぶら歩くという意味だそうです。「それだ!」と、とんとん拍子に話は進み始めは「お酒の上の話だから」と半信半疑だったものの、往復の飛行機代とホテル代がついた格安チケットも手配され、えっホントに行くのかな?

全国的な大寒波に襲われ、風路は水道凍結・停電・ポイラー壊れ等の大騒動。新規購入。取り替え等、零細とはいえお客様商売として、家を空けられない状況が続き、一旦はキャンセルも考えましたが

面電車に乗って平和公園へ。目指すは平和の像。50数年前と同じ格好で、像の前でポーズをとる周平(成長無し?)ここで毎年平和祈念式典が行われているのですね。毎年、市長さんと被爆者の方



と。デザインも様々。全面広告もあり、緑と黄色のシンブルなものあり。どんな電車が来るのか楽しみで。最初は大浦天主堂へ。中も見学。「26聖人」「信徒発見」など、キリスト教迫害の歴史と、信仰を貫いた人々のこと、全く知りませんでした。弾圧は明治になってからも続き、1873年、259年ぶりに禁教令は効力を失ったのだそうです。

お昼はこの旅の目的のひとつチャンポン。美味しい!その後孔子廟へ。ここで渡嘉敷先生から教わった、学問の木(楷の木)を2本見つけました。楷書のよいうにきちんと並ぶ葉は全て落ちていました。

この後、いづらか健脚組は坂本竜馬ゆかりの亀山社中記念館へ。そこまで行くには階段階段また階段!毎日来ていたら足腰鍛えられると思いませんか!?それから出島、そして夜はランタン祭りに、くり出しました。約15000個のランタンと幻想的な光で彩られたさまざまなオブジェに目を見張ります!もともとは中国の旧正月を祝う春節祭として始まり、今は長崎の冬の風物詩となっているそうです。

奇跡的に出発前日に全ての復旧が完了!(?!?)不安を抱えつつも早朝の小淵沢を出発しました。

平和公園へ

さて、前置きが長くなりましたし



が、無事機上の人となり、長崎空港着♪50年以上前の高校の修学旅行以来の長崎です。3日間お世話になる駅前のホテルに荷物を預け、まずは路

路面電車で市内観光

2日目は路面電車の1日乗車券(600円)を買って市内観光。全国から使われなくなつた電車が集まってくるこの

うです。すぐ隣にあるグラバー邸へは一旦階段を下り、オランダ坂を登っていきます。確かに長崎は坂が多い町です。グラバー邸に近づくとなんとエスカーレーターが!助かります。広大な敷地にはグラバー邸の他にもいくつもの洋館があり、各部屋ごとに暖炉があったり、海が見える部屋があったり、豪華な暮らしがうかが

島原鉄道と具雑煮

3日目は自由行動の日。私たちは島原へ。島原鉄道が楽しい。ほぼ有明海の海に沿って走ります。島原では美しいお城を見て、「具雑煮」といううらへつづく

表からつづく

名物料理を堪能。

夜はみんなで托袱料理。

原爆資料館と被爆クスノキ

最後の日も12時まで自由行動。やっぱり原爆資料館へは行かないと！

昔と建物は変わっていて、とても立派で展示も工夫されています。入場料200円！今時お安くはないですか？

原爆投下直後の写真に柱が一本だけになった鳥居があつて、こういうものも残して置いたらいいのにね、と話していたら、なんと残っているそうです。まだ時間もあるので、見に行くことにしました。

ありました！山王神社の二の鳥居だそうです。

またすぐ近くの神社には被爆クスノキもありました。空

【松尾あつゆき日記】

原爆資料館の販売コーナーで、永井博士の「この子を残して」と「松尾あつゆき日記」を購入。永井博士は有名ですが、松尾あつゆきを知ったのは10年ほど前。五七五にとられない自由律の俳人です。

原爆により3人のお子さんと奥さんを次々に亡くし、ただ一人生き残った長女も重症…という日々詠んだ俳句はどれも慟哭が聞こえてくるようです。

あわれ七カ月のいのちの
花びらのような骨かな
降伏のみことり

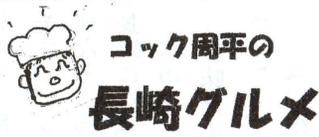
妻をやく火いまぞ熾りつ

資料館の前にこの後の句碑が建っているとのこと、知っていれば見てみたかった。(次回?)

長崎旅行が企画されたとき、私の一番の期待は「長崎チャンポン」と「一口餃子」でした。高校の修学旅行で短い休憩時間

に走ってお店に食べに行った時の味が忘れられず、今回、中華街のお店に入るや、早速注文。「これこれ！」太くこしのある麺、鶏肉と豚骨のスープ、濃厚でも決してくどくなく野菜と魚介の旨味が口いっぱいに広がりました…「うまいッ！」そして一口餃子。大通りから少し引込んだ所にあるそのお店。1階は満席、2階の座敷に案内され、各々10個(最少単位)ずつ注文。本当に一口でパクッと食べられる大きさ。うまい！ビールに合う～(20個でも良かったね…)

島原城前の「姫松屋」さんの具雑煮も特筆。島原を代表する郷土食で島原の乱のときに天草四郎が兵士の兵糧として作らせたものとのこと。たくさんの魚介や野菜、それぞれの旨味が溶け込んであっさりしているのに深い味。葉かにも生からすみ、長崎サラダ、等々美味しいもの沢山！大満足♪



に大きく枝を伸ばした2本の立派なクスノキ。樹齢600年とも言われていますが、被爆当時は主幹も折れ、枯れ木同然の姿に。無数のガラス片が刺さり、治療は困難を極めたとのこと。1本のウロにはたくさんの小石。これも爆風で飛んできたのだそうです。約2年後に奇跡的に新芽が芽吹き、その後次第に樹勢を取り戻したそうです。これから毎年8月9日の祈念式典の時にはきつとこの一本柱の鳥居と被爆クスノキも思い出すことと思います。

楽しく、美味しく、有意義な旅もあつと言う間に終わりました。また長崎空港から機上の人レになり、夜には小淵沢へ。長崎、また行きたいです！

スペイン巡礼の道

【北の道】2018年 No.3

サンタンテール

到着♪

7日目

このまま進むと海の中!

ラレドで泊まった宿を出発するとき、宿の女主人(セニョーラ)から「初めての日本人なので写真を一緒に撮らせて」とリクエスト。喜んで♪

1時間程歩いて岬の突端へ。そこからフェリーに乗ってサントニヤと言う町へ渡ります。しかしフェリー乗り場も切符売り場も見当たりません。数人が砂浜を歩いています。その先は海ですが…

小さな船がこつちに向かっています。えっ！海にジャブジャブ入ってあの船に乗るのでは？まさかね…なんと板を砂浜まで渡してくれて、その板の上を歩いて船に乗るのでした。切符は船長さんが売っていました。無事サントニヤへ。そこからしばらく歩いてノハ着。

8日目 楽しい一夜♪

きょうは8キロほど歩いて泊まるつもりが、地図にある宿は閉鎖中！仕方なくその先のアルベルグを目指します。遠かった…

そこは食事の前に全員オスピタレロ(世話人)の話聞きに集まります。英語に訳す人、フランス人に通訳する人などが指名されました。英語がほんの少し聞き取れる位の私たちは、特にみんながどつと笑うときなど「カヤの外」感。それでもなごやかな雰囲気は感じられ、そのまま食堂へ。同じテーブルの韓国人のご夫妻(50代?)は日本語も話せる方でした。なんとそれぞれ20キロの荷物を背負って毎日30キロ位歩くのだそうです。私たちが8キロの荷物で15キロほど歩くと言ったら少し沈黙…

楽しく歓談しているうちに真真中に飛び出した巡礼者が歌うのは「ウルトレイヤ」(巡礼の歌のようです)。みんなで一緒に歌い、その後も楽し気な歌が続く、周平も思わず飛び出して踊ったり…思い出深い一夜となりました。

朝食時、きのうのきょうでなんとなく打ち解けて同じテーブルに座った人たちとお話しました。エリザベスさんはカナリア諸島から。出発するときもお互いにエール交換。大きな通りを行く道と海沿いの道があるが「ぜひ海沿いの道を行け」ときのう言われた(と思われる)ので海沿いの道を行きます。最後の方は砂浜。13キロ歩いてホテル着。夕飯は近くのお店でパエリア。今日は誕生日です♪

10日目 サンタンテール

きょう歩くのは2キロだけ！大きな船に乗り(しつかり乗り場も切符売り場もありました)今回の目的地サンタンテールに到着です！やりました！(本当は前年ここまで来るはずだったので…)やっとな北の道の3分の1です。ここに2泊、

11日目 モンピア

ホテルに荷物を預け、小さなリュックひとつで10キロ先のモンピアまで歩いてみることにしました。帰りは電車です。戻ってくる作戦です。電車を下りて改札口の出口がわからずウロウロしたくらいで、まずは作戦成功？

夜はサンタンテールで見つけたおいしいイタリアンのお店で、乾杯♪

次の日からは、北の道のお気に入り、美食の街サンセバスタチャンまでバスで戻り、3日間しっかり「研修」(?)これが毎日の歩くパワーになっていたという周平でした。

今回も珍道中ながら多くの人に助けられてなんとか無事帰国。

【北の道2018年編 完】